



第6戦 ツインリンクもてぎ

Human & Technological Gallery



石浦3位スタート4位入賞、国本トラブルで無念のリタイヤ。

8月9日、10日の2日間で、ツインリンクもてぎ(栃木県)にてフォーミュラ・ニッポン第6戦が開催された。今回はタイヤ交換が義務付けられており、真夏の厳しい路面温度の下、タイヤ交換のタイミングも作戦の一つとなる。

8月9日(土)、夏の太陽は陰をひそめ、曇りがちな一日となった。今回も予選はロックアウト方式によって行われ、14:20よりQ1が開始。石浦、国本ともに開始時刻と同時にコースインすると、両者マシンを確認し、いったんピットへ。計測周回数と残り時間とのタイミングを合わせて再びコースイン、それぞれニュータイヤを装着してアタックを行った結果、石浦3番手、国本8番手でともにQ2へ進出。Q2は14:50からの10分間で行われ、国本は開始と同時にフロントのみニュータイヤを付けてコースイン。1周してピットへ戻り、リヤもニュータイヤに交換。そのままアタックを行ったが、あと一步の10番手で終了した。石浦は残り時間5分でコースインするとアタックを開始、3番手でQ3に進出を決めた。Q3は15:10からの10分間。いったんマシンのチェックのため開始と同時にコースイン、すぐにピットへ戻り、他車と同じ残り6分のタイミングでアタックを開始。3番手を獲得し、スターティンググリッドが決定した。

8月10日(日)、前日に続いて朝から空は雲に覆われた。今回はタイヤ交換義務付けレースのため、朝のフリー走行ではピット作業を本番さながらに実施。あとは決勝に備えてマシンの確認を行った。

午後になっても曇天のまま、14:30にフォーメーションラップがスタート。3番手からスタートした石浦は、1周する間に1つポジションを落として4番手。エンジン交換を行ったことによる10グリッド降格を受け最後尾からスタートした国本は、1つポジションを上げて12番手に。小暮選手のフライングによるペナルティが取られたため、4周を終えてともに1つポジションアップ、石浦3番手、国本11番手に。トップ争いをする2台の後ろで石浦も懸命にこれを追うものの、少しずつ差が開いていく。決してラップタイムは悪くなく、後車との間隔も同じように少しずつ開き、3番手を独走する格好に。国本はタイヤの消耗によりタイムが上がり、14周で後車に先行されて12番手、21周を終えて他より早いタイミングでピットイン。タイヤ交換後はラップタイムも回復、ピットインのタイミングが功を奏して、他車のピットインラッシュが落ち着いた32周で9番手まで順位を上げた。前車に追いつき、その差を0.3秒まで縮め、先行するタイミングをうかがっていた38周、ギアトラブルが発生。すぐさまピットに入り修復を試みたが、復帰は叶わずここでリタイヤとなった。石浦は26周を終えたところでピットイン。順位は3番手をキープし、依然前後ともに差が縮まらないものの、自身のラップタイムは好調に刻まれていた。50周に入り、もはや3位表彰台は間違いなしと思われていたその時、なんと石浦にもギアトラブルが発生。ギアが上がらないまま最終ラップを迎えると、後車が背後に迫る。まさかの逆転で4位に後退、苦しい最終ラップを終え、4位入賞でチェッカーを受けた。

土沼広芳 監督のコメント

「予選は、石浦は今回も3位で、惜しくも上位2台には届かなかったものの、レースで前に行くことが期待できるポジションでした。国本は予選10番手でしたが、エンジン交換による10グリッド降格のため最後尾からのスタートでした。レースは石浦はずっと3位をキープしていて、国本は入賞の可能性もあったのですが、2台ともにパドルシフトの部品にトラブルが発生し、非常に残念でした。残り2戦、何とか勝てるように頑張りますので、ご声援よろしくお祈りします。」

#7 国本京佑のコメント

「茂木は今季2度目のレースでしたが、まず予選でQ3進出が成らなかったのが残念でした。1周にうまくまとめられなかったこと、攻め切れていないことなどの積み重ねが原因だと思います。決勝は、序盤の数周で頑張り過ぎたことでリアタイヤの消耗が激しく、ペースが上がらなくなってしまいました。他のクルマよりも早めにピットに入ってタイヤ交換を済ませたことで、前にいた集団に先行できたことは良かったです。そこからはペースも悪くなく、リアタイヤをセーブしながら走ってたら、ギアが壊れてしまいました。結果は残念でしたが、1周1周勉強しながら走れたことは必ず次に繋がると思っています。次戦のオートボリスはフォーミュラ・ニッポンで走ったことのないサーキットなので厳しい戦いになると思いますが、全力で頑張りたいです。」

#8 石浦宏明のコメント

「土曜のフリー走行の結果が3番手で、予選もその辺りには行けるだろうと思っていたので、さらに上を狙ってマシンをセットアップし、それをQ1で確認、Q2、Q3とコンディションに合わせてマシンをアジャストし、自分的には上手く進んでいました。しかしQ3の一番タイヤの状態の良いところで他車に邪魔をされて、本来のベストタイムを出すことができなかったのですが、それでも3番手になれるというポテンシャルを確認できました。レースは、小暮選手のペナルティで3番手になって以降は自分のペースとの戦いで、前の2台には離されてしまったものの、逆に後ろもペースが上がらないようだったので、3位は取れると思いましたが、何とかいいタイムを刻んで少しでも良い走りしよう頑張りました。しかし残り2周でギアが変わらなくなり、残念ながら結果は4位。内容は悪くなかったレースだったと思うので、この分もオートボリスで優勝を狙いたいです。」